

「Children Firstの子ども行政のあり方勉強会」

小児科クリニックにおける
「医療教育コーディネーター」の配置とその役割

R7.1.23 参議院会館



秋山 千枝子
松野 泰一

1

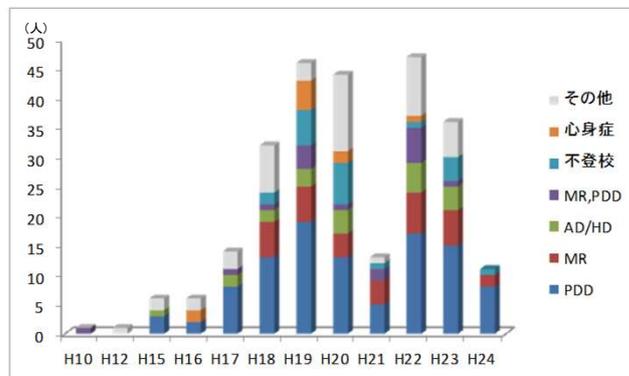


あきやま子どもクリニック 子ども相談室

2

「相談室」を初診した対象児の数(新規患者数)

(主たる臨床診断×初診日の属する年)



保険傷病名とは必ずしも同一ではない。複数の診断がつく場合は主たるものを採用した

平成24年は3月31日までに初診日のあったもののみ示した

「こども相談室」は平成17年度開設であるが、開設以前に発達について相談のあったケースを含めて示している
平成19年には、特定地域のスクールカウンセラーからの紹介のケースが多かったことによる

[第12回発達性ディスレクシア研究会、富山、2012 発表資料より](#)

3

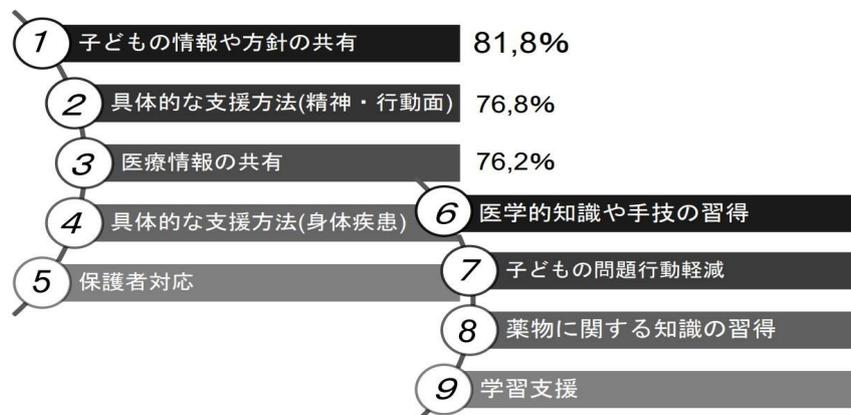
【資料】

参考：日本小児科学会小児医療委員会

◆小中学校・特別支援学校教職員を対象とした
「教育と医療の連携」に関するWeb調査（2023）

「教育と医療の連携」に関するwebアンケート

連携で医療に期待すること



4

【資料】

参考：日本小児科学会小児医療委員会
 ◆小中学校・特別支援学校教職員を対象とした
 「教育と医療の連携」に関するWeb調査（2023）

「教育と医療の連携」に関するwebアンケート

小児科医への要望 自由回答から

- ① 学校教育の基礎知識を習得してほしい
- ② 現場での個別対応の困難さと成長の妨げになる可能性に対する理解
- ③ 気軽に相談できる体制
- ④ 集団の中で、誰でもできる指導法の助言
- ⑤（学校側と）一緒に考える姿勢
- ⑥ 治療内容や治療方針といった医療情報の提供
- ⑦ 学校に配慮した保護者への説明
- ⑧ 学校現場の負担を増やさない配慮
 等が学校側から小児科医への要望としてあげられた。

これらの学校側の要望に
 応えるためには・・・

5

医療と教育の一層の連携が必要

令和5年4月より

当クリニックの「子ども相談室」の相談助言・予診などを行う

「医療教育コーディネーター」を配置

6

医療教育コーディネーターとは

発達の問題で来院する子どもの

不登校・登校渋り
友人関係のトラブル
学習上の課題
集団生活上の課題 等について

学校の実態を熟知している立場から
環境調整等についての助言をする

7

医療教育コーディネーター（松野）の経歴

都内公立小学校	教諭
練馬区教育委員会	指導主事
東京都教育庁指導部	指導主事
東京都教育庁指導部	統括指導主事
東京都教育庁指導部	主任指導主事
三鷹市教育委員会	指導課長
杉並区立小学校 2校	校長

定年退職ののち現職

8

【医療教育コーディネーターの職務】

1 医療教育コーディネーターによる「医療教育相談」

医師の診療後の定期的なカウンセリング

- ・保護者から学校や家庭での状況の聞き取り
 - ・不登校、集団生活不適應、学習不振などの課題について
学校での環境調整を目的として保護者に助言
- 医師と今後の対応策について協議し、
次の医師の診察につなげる

9

【医療教育コーディネーターの職務】

2 医師の子ども相談室予約相談の「予診」

医師の診察の前に

- ・来院の経緯や前回からの変化について聞き取る
 - ・学校での様子を聞き取る
 - ・現在受けているサポート(通級・検査・療育等)の把握をする
 - ・保護者の困り感の聞き取りをする
 - ・予診室での子どもの様子を観察する
- 以上を電子カルテに入力した上で、必要に応じて
医師に口頭で伝達する

10

【医療教育コーディネーターの職務】

3 医師の相談診療に「陪席」

医師の診療の中で、**学校での過ごし方の部分**について
陪席して保護者に助言する

- ・学校への要望の伝え方等について
- ・学校ができると思われる対応について 等

11

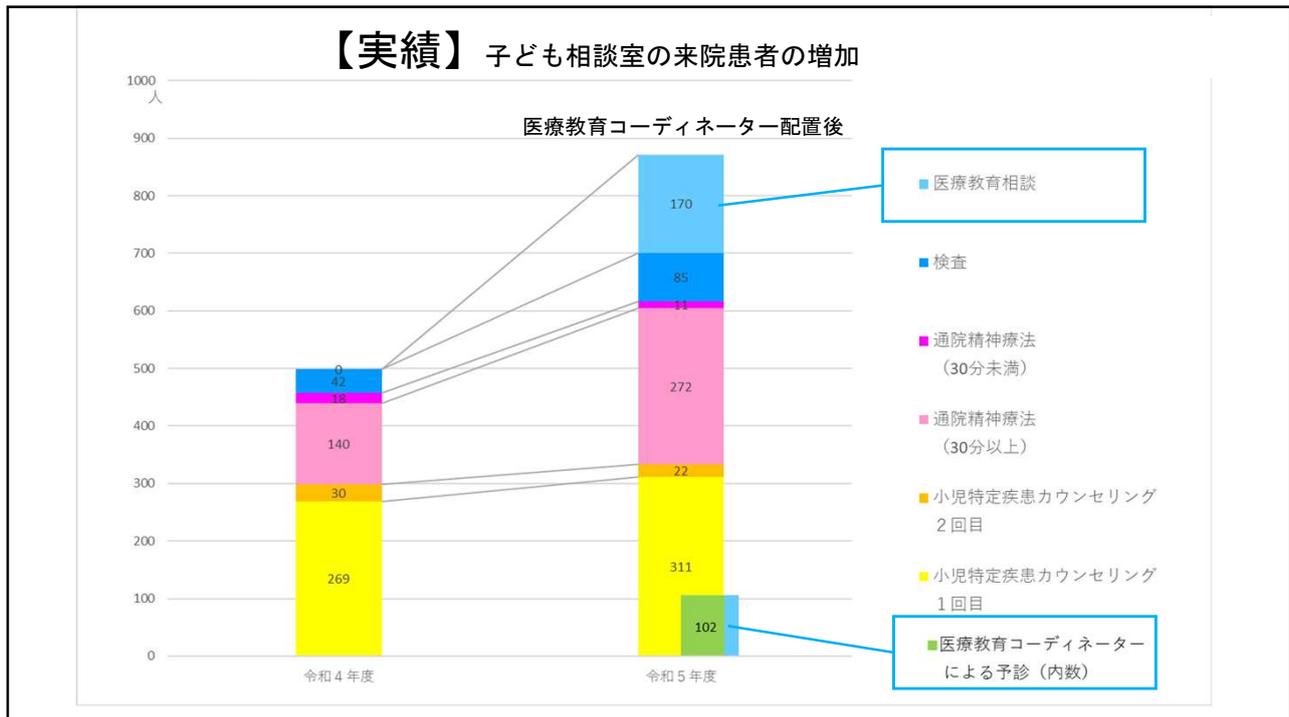
【医療教育コーディネーターの職務】

4 学校との連携

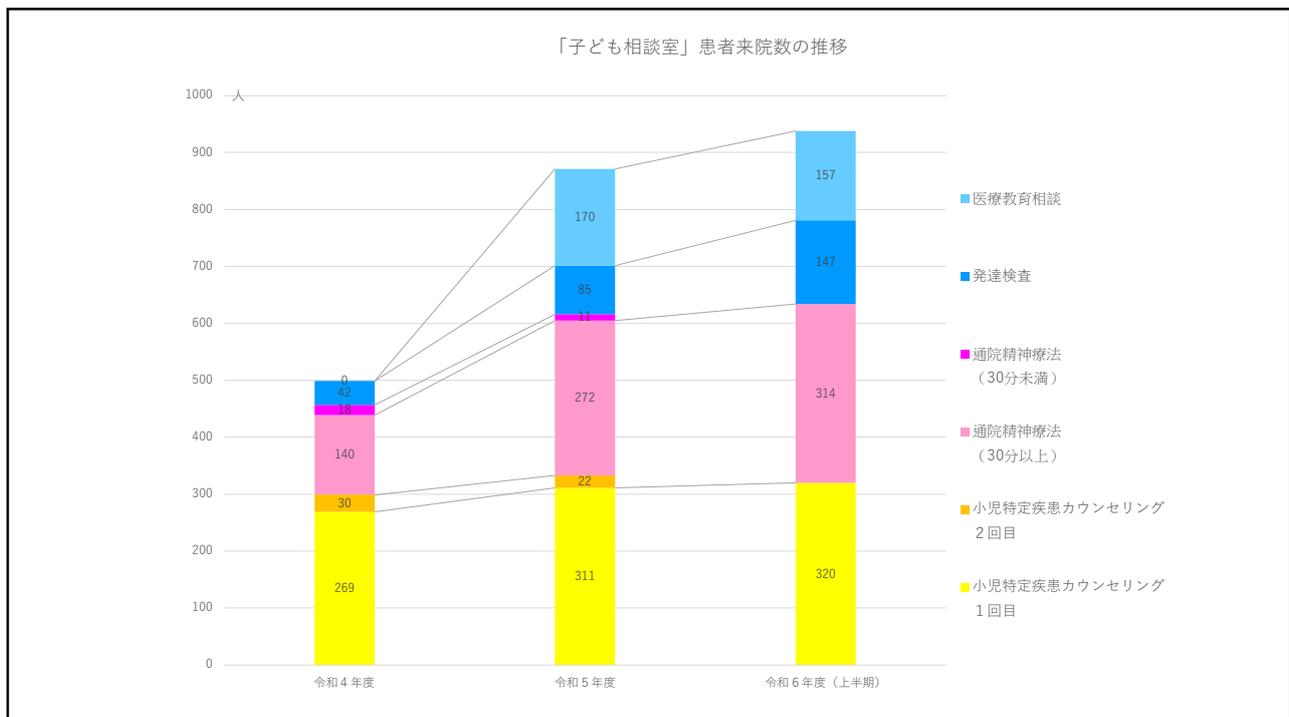
保護者から学校との**情報共有について承諾**を得た上で
学校に訪問して校長・教員等と情報のすり合わせをする
授業などの子どもの**活動の様子**を観察する
学校でどう対応するかを校長・教員と話し合う
必要に応じて「ケース会議」等に参加する

→ 次回の医療教育相談で保護者にフィードバックする

12



13



14

【実績】

- ・ 令和5年度+令和6年度上半期の18ヶ月でのべ**327件**の相談
- ・ 子どもごとの実人数カウントだと125人のクライアント

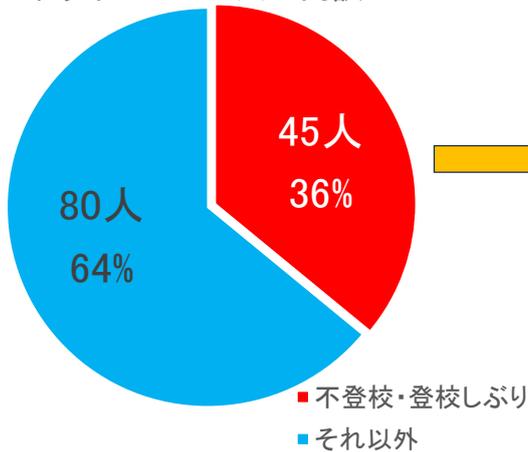
15



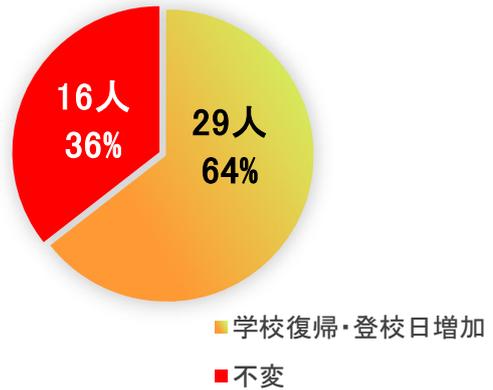
16

- ・不登校・登校しぶりの状況にあったのは 45人／125人
- ・そのうち、学校復帰や登校日数が改善したのは 29人／45人
(適応指導教室含む)

クライアント125人の内訳



不登校・登校しぶり45人の経過



17

連携している学校側からの声

- ・ **学校のことがよくわかっている人が医療機関にいてくれるのはとても有効である。**
- ・ **学校からは言いにくいことを医療機関の側で伝えてもらえるのがありがたい。**
- ・ **学校での様子も見て理解した上でそれを保護者に伝えてくれるので話が食い違わずに共通の認識になるのがよい。**
- ・ 日常的に学校全体の状況を把握してもらえるので教員としても**安心感があり相談しやすい。**

18

【成果と今後の課題】

医療教育コーディネーターの配置による
医療と学校との連携は**双方に有効**

支援者としての**保護者からの信頼**

学校側からの**医療への接続も増加**

医療教育コーディネーターの普及が課題